

## エゼキエル書 37 章 1-14 節

### 「神の息による命」

本日は聖霊降臨日、ペンテコステです。この日に確かなことが一つだけ起こります。それは、主イエスが逮捕されたときに逃げ出した弟子たち、主イエスが復活されてもすぐに信じられなかった弟子たちが、この日から人が変わったように主イエス・キリストの福音を宣べ伝える者となっていったことです。

では、この時に弟子たちに降った「聖霊」とは何でしょうか。『ふしぎなキリスト教』という本から、少し抜粋します。「…神との唯一の連絡手段が、聖霊。聖霊は、昇天したイエスの代わりに、弟子たちが集まっているところに降りてきて、炎みたいになったり、彼らに入り込んで特別な状態を作り出した。イエス・キリストはいなくても、代わりに聖霊がいる。」と書いてありました。確かに、「聖霊」の簡単なイメージとして「神との連絡手段」がわかりやすい。けれども、私たちが毎週使徒信条にて「我は聖霊を信ず」と告白している「聖霊」とは、神さまそのものです。実際に目には見えないけれど、人を生かす働きのことであり、私たちを「新しく生まれさせてくださる働き」が聖霊なのです。聖書では、古くから聖霊を「風」や「息」として表現をしてきました。旧約からの考えでは、「聖霊とは神の創造の息吹である」と言えるでしょう。そして今日のエゼキエル書37章は、まさしく創造の息が吹いたという話です。紀元前 587 年、エルサレムは完全に破壊され、民は帰るべき場所を失いました。エゼキエルは、人々をどう慰めてよいのかわかりません。そんな彼に一つの幻が示されます。それが「枯れた骨の復活」の幻です。

神さまがエゼキエルに言われます。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。」エゼキエルは答えます。「主なる神よ、あなたのみがご存じです。」枯れた骨が、自分の力で生き返ることは絶対に不可能であると、エゼキエルは理解していました。そのうえで、人間の業ではなく、神さまが御自分の業として、これらの骨を生き返らせることを約束してくださいました。ここで言われていることは、わりと明快であるとわたしは思います。それは、「神さまの霊をいただきなさい、そうすればあなたがたは生きることができます」、ということです。自分たちに希望のない生活、それこそが「枯れた骨」でした。しかし望み失せて死に果てた状態であった人々、そのような人々に神さまの霊、神さまの風が吹き、彼らに創造の息吹が与えられる、と。

12節以降の出来事は、実際70年後にバビロン捕囚の後、エルサレムが再建され、聖霊の豊かな働きにより、イスラエルの民は元気を取り戻し、霊的に豊かに生きる者とされ実

現しました。実は、さらに、それを超えて、メシア、イエス・キリストの十字架の死と復活の後、聖霊降臨によって始まる新約時代に生きる者たちが、聖霊の豊かな働きを受けていることにおいて実現しているのです。すなわち、わたしたちにおいて実現しているのです。

今日の聖書が私たちに伝えている言葉の中で、エゼキエル書が人々に向かって繰り返し語っている言葉。それは、「聖霊の豊かな働き」です。この預言は、旧約の時代だけでなく、新約時代の、今を生きるわたしたちに、聖霊が豊かに働いて、それが実現していることを覚えたいと思います。わたしたちが神さまを信頼し、呼びかけをすることができるのも、イエスは主であると告白することができるのも、それは私たちの力によるものではありません。大切なことは、私たちの心を開け放ち、神さまの風に入ってきていただくことです。そのとき、私たちの死ぬはずの体は生かされることでしょう。ペンテコステの今日、私たちは、聖霊の力と恵みにより、労苦を通して、共に教会を建て、伝道をし、よい交わりをし、喜びにあふれた信仰生活をするように求められているのです。